

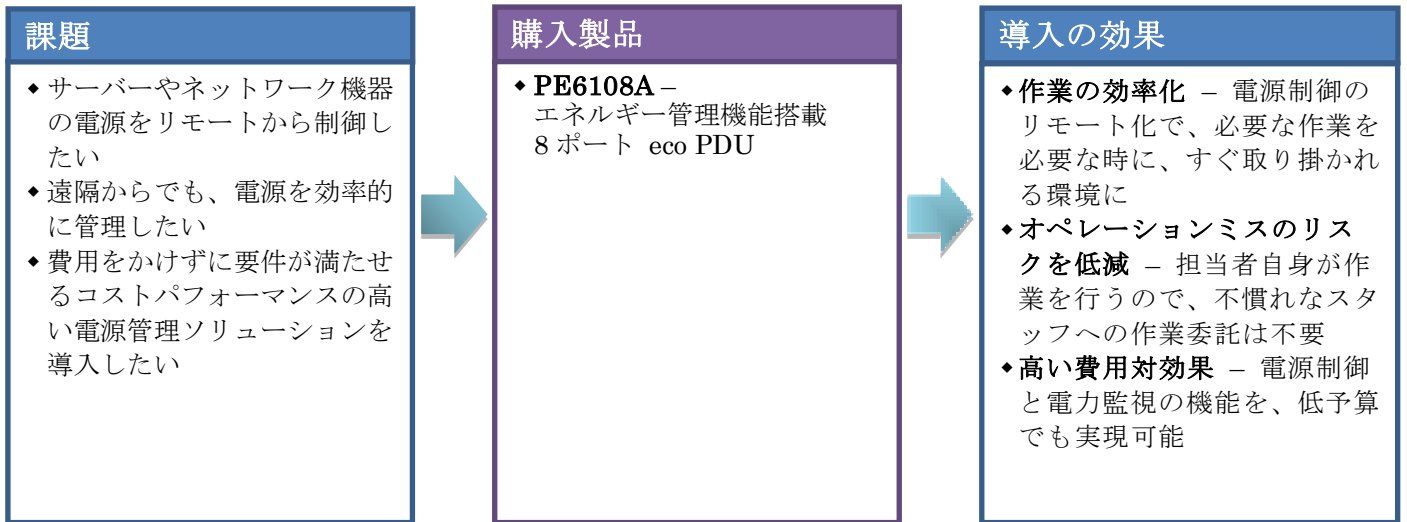
ドヴァ eco PDU で効率的なリモート電源管理を実現

沖縄データセンターの監視・保守用に PE6108A を導入

会社名：株式会社 ドヴァ

株式会社 ドヴァ(以下、ドヴァ)は、インフラ整備、ネットワークやシステムの構築から、それを活用するためのサポート・運用・保守まで幅広く手掛けるシステムインテグレーター(SIer)だ。

同社はサーバーのハウジング先として沖縄データセンターを提供。また、同じくここを活用して、クラウド型オンラインバックアップサービス「シーサーガード +BACKUP」を展開。いずれも、ここをディザスタリカバリの拠点にすることで企業の事業継続性を確保しようというドヴァの狙いが、震災以降 BCP 対策を重視する企業のニーズにマッチしたこともあり、ますます多くのユーザーに支持されている。



導入前の課題

遠隔からのメンテナンスに欠かせないネットワーク経由でのリモート電源管理を実現したい



本社を置く横浜ランドマークタワー

沖縄データセンターの運用を担当する、同社の清水氏(同社取締役 ICT ソリューション統括本部システムソリューション部)は、過去の弊社導入事例記事でも紹介したように、ATEN 製の IP-KVM スイッチとインテリジェント PDU をこのデータセンターに導入し、自身が籍を置く横浜のオフィスから、リモートアクセスしてシステムメンテナンスを行っている。

ドヴァでは、ハウジングサービスや「シーサーガード +BACKUP」のバックアップサービスが好調のため、サーバーやネットワーク機器をさらに増設することになったが、これと同時に、電源制御用のインテリジェント PDU も必要になった。

顧客から預かった大事なシステムやデータを、現場と同じ条件で運用管理するには、対象となる機器に単に遠隔からアクセスできればいいというわけではない。機器の電源の状態を的確に把握し、必要に応じて電源を切ったり入れたりする操作も不可欠である。障害の中には、機器を OFF にし、電源を再投入すれば解決するというものも多くあるからだ。

そこで清水氏は、ネットワーク経由で電源制御ができることを最優先条件として、PDU の選定に乗り出した。

購入のポイント

既存の ATEN 製 IP-KVM スイッチと PDU で品質と費用対効果を確認し PE6108A を採用

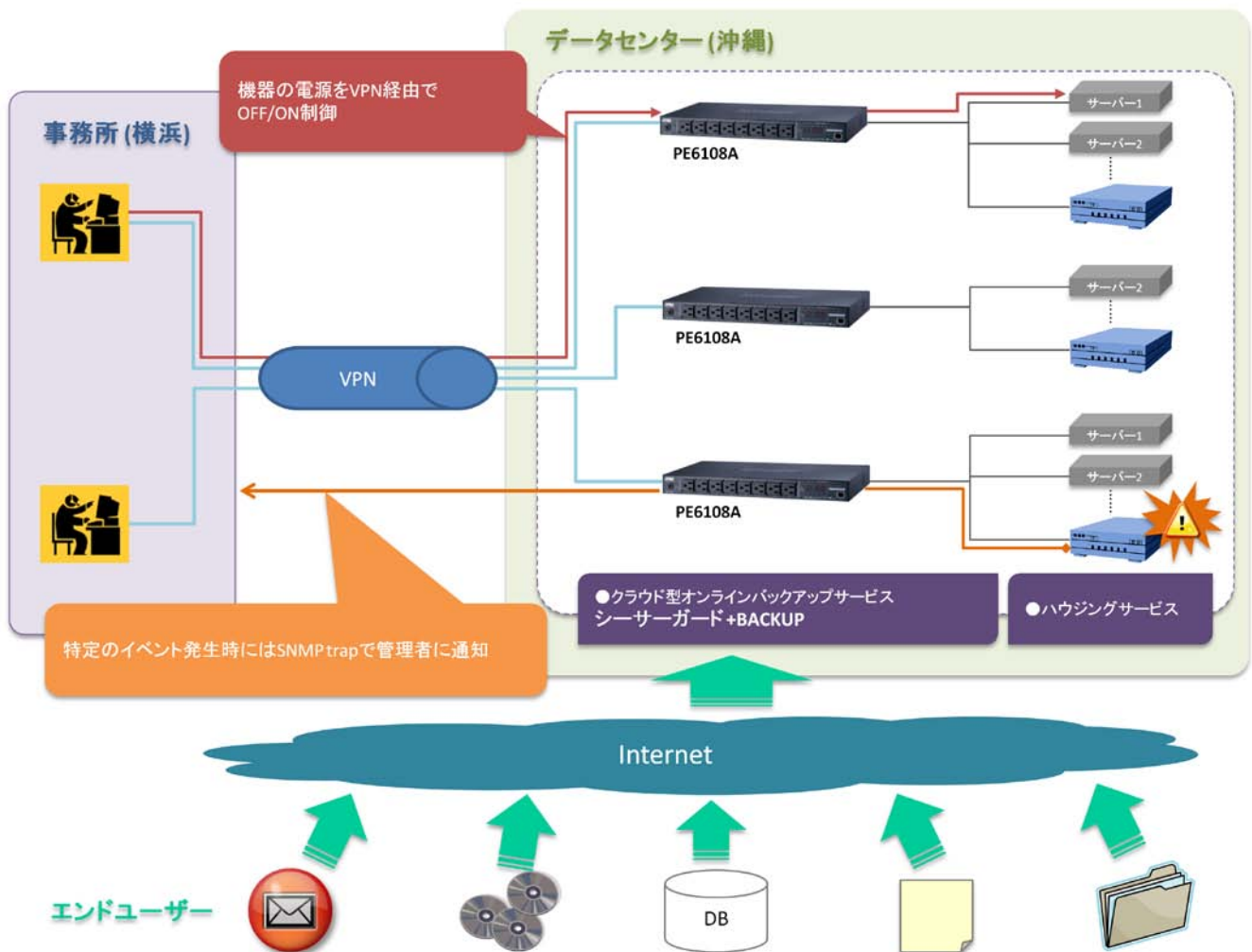


PE6108A
エネルギー管理機能搭載 8ポート eco PDU

清水氏は、既に導入している IP-KVM スイッチとインテリジェント PDU の使用感から、ATEN 製品を高く評価していた。リモートからの運用に必要な機能を揃えていながら、コストパフォーマンスが高いからだ。

そして、ATEN が近年、電源関連の分野に力を入れていることを知り、ATEN 製品への期待をさらに高めていた。今後、新たに PDU を導入するなら、やはり ATEN 製品にしようと考えていた。同じ ATEN 製品であれば品質やコストパフォーマンスの点でも安心であるうえに、既存製品と同じような感覚で使えるので、導入しやすいと考えたからだ。

こうして、同氏は ATEN 製インテリジェント PDU の中から、電源 OFF/ON 制御ができるモデルのうち、データセンターの電源設備と接続機器のアウトレット形状に適して、なおかつ、導入コストを抑えられる 8ポート eco PDU 「PE6108A」を選定することになった。



導入の効果

ネットワーク対応と SNMP trap の活用で電源管理を効率化。費用対効果の高さにも満足

導入した PE6108A は、リモートからの電源 OFF/ON 制御をメインに使っているそうだが、最大のメリットは、やはり作業のリモート化による効率改善だと清水氏は語っている。リモート化する前は、現場での作業が必要となる電源操作の際には、沖縄データセンターに常駐しているスタッフに電話で指示して対応してもらっていたそうだが、手間がかかる上に、万が一、コミュニケーション上の行き違いがあると、オペレーションミスにもつながりかねない。一方、作業をリモート化すれば、従来ならば移動に費やしていた時間を、対応時間に充てられるので、より短い時間での対応が可能になる。担当者が直接作業するため、作業ミスの可能性も低減できるといったメリットもある。

また、これ以外にも効率化を感じている部分があるそうだ。PE6108A では、SNMP trap が利用できるため、あらかじめ対応が必要なイベントを設定しておけば、万が一の場合でも、通知を受けてすぐに対処ができる。通常は、そのまま稼働させておき、必要な時だけ必要な対応をすればよいので、常時監視の必要がなく、無駄がない。

さらに、コストの面でもメリットがあったという。以前使用していた他社製のものとほとんど同じ機能を備えているながら、今回導入した eco PDU は、それよりも費用が少なくすんだ。この点にも清水氏は満足していると語る。

感想・今後の展開

計測値を表示できるフロントパネルの LED を重宝。環境センサーや計測値の更なる活用に意欲



計測値は PE6108A フロントの LED パネルに表示可能

PE6108A を使ってみて、特に便利に感じているのは、接続機器の計測値がフロントパネルの LED 表示で確認できることだそう。例えば、接続機器の電流値を確認したい場合、過去に導入した他社製の PDU は、一度、管理画面に入らないと値が確認できなかったが、PE6108A であれば、機器をつなぎながら、その場でパネル上の値を確認することができるので、重宝していると話す。

この PE6108A をはじめとする eco PDU は、ドヴァで主に活用されている電源 OFF/ON 制御の機能だけにとどまらない。センサーをつなげると、温度や湿度など、ラック内の環境エネルギーを測定することができるため、状況がより細部まで把握できる。また、付属の管理ソフトウェア「eco Sensor」を使えば、複数の eco PDU の統合管理ができるとともに、収集した電力データを分析することで、使用エネルギーを最適化する方法を導くこともできる。こういった環境監視やエネルギー管理の機能が、一般的なインテリジェント PDU とは一線を画して、「エコ」な PDU とされる所以である。

清水氏は、電力測定やセンサーを取り入れた環境監視への取り組みにも高い関心を示している。電力を測定すれば、計測データに基づいて、電力量の多い機器を省電力の機器にリプレースしたり、システム毎の空き容量に合わせて、機器を配備したりすることができる。また、センサーで温湿度や差圧を測定すれば、測定結果を分析して、空調の設定を最適化し、エネルギー効率を高めることもできる。今後は、これらを活用することで、運用管理の環境を、より充実したものにしていきたいと話していた。